

新潟本社行動計画の取り組み状況について

2021年度 第2四半期進捗報告



2021年 10月 25日
東京電力ホールディングス株式会社
新潟本社

1. 安全性向上の取り組み
2. 運営体制の構築の取り組み **update**
3. 防災支援の取り組み 緊急時の初動体制 **update**
4. 地域貢献の取り組み
 - ① 長岡技術科学大学との共同研究 **update**
 - ② 地域行事への参加 **update**
5. 傾聴と対話の取り組み
 - ① コミュニケーションブース **update**
 - ② 地域の皆さまへの説明会
 - ③ 発電所視察対応 **update**

1. 安全性向上の取り組み（1/3）

概要

- 「安全意識」「技術力」「対話力」を向上させるため、原子力安全改革プランを実行
- 新規制基準適合性審査（以下、審査）への真摯な対応
- 福島第一原子力発電所事故の反省を踏まえた安全対策の着実な実施
※個別具体的な取り組み状況について、原子力安全改革プラン進捗報告にて報告

* なお、柏崎刈羽原子力発電所における一連の事案を踏まえ、福島第一原子力発電所事故まで遡り、安全文化や核セキュリティ文化が現場の隅々まで根付いていたのか、組織的な課題を明らかにすることとしている。柏崎刈羽原子力発電所にとどまらず、社長を含む経営層・本社まで広範囲に調査を行い、原子力部門の組織全体の課題を明らかにする。

主な取り組み

<事故を防ぐ>

- 福島第一原子力発電所事故の反省と教訓を踏まえた、自主的な安全対策を実施
- 綿密な断層調査による活動性評価及び保守的な基準地震動の策定
- 厳格な審査を通じた、更なる安全性向上と継続的な改善

<止める（事故対応における技術的能力の向上）>

- 事故対応時に迅速・的確な意志決定が図られるよう、米国などの緊急時対応体制である、ICS（災害時現場指揮システム）の考え方を導入
- 過酷な状況を想定し、さまざまなシナリオによる訓練を継続的に実施し、技術的能力を向上

1. 安全性向上の取り組み (2/3)

主な取り組み

<冷やす>

- 電源喪失時も原子炉の冷却が可能となるよう、高圧代替注水設備の設置、消防車や大容量送水車の配備等、冷やす機能を多様化、多重化



<放射性物質を閉じ込める・減らす>

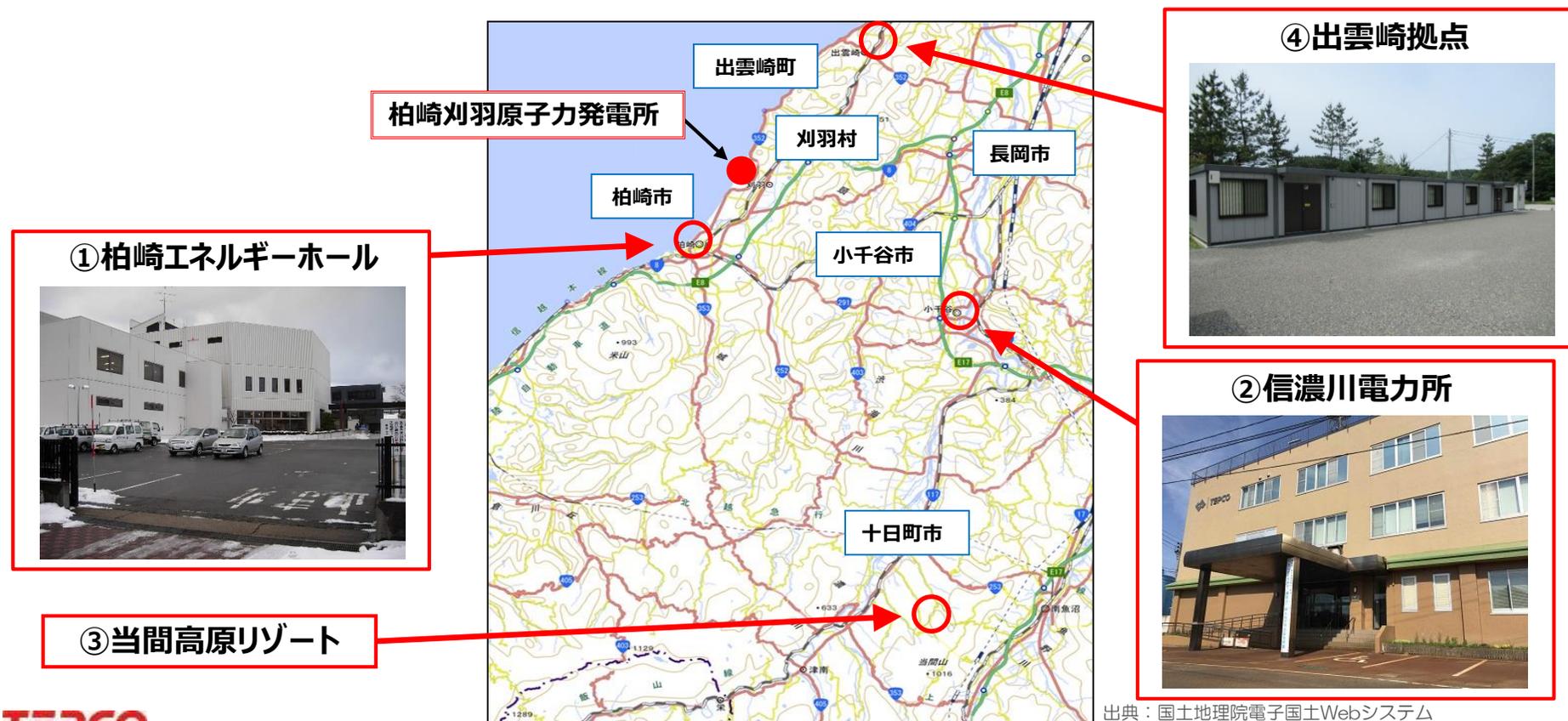
- 既存の除熱システムに加えて、圧力容器と格納容器内の除熱が可能な「代替循環冷却設備」を開発し設置
(審査では、フィルタベントと同等以上の効果があり、ベントに優先して使用すべき設備として評価され、他のBWRプラントにも設置を義務付け)
- 万が一のベントに備え、放射性物質の放出を大幅に低減するフィルタベント装置を設置



1. 安全性向上の取り組み (3/3)

<災害対策支援拠点の整備>

- 原子力発電所の災害対策（事故の収束や拡大防止）を支援するため、必要な資機材を保管・調達し、発電所へ送り出したり、対応要員の往來を管理するための拠点
- 当社では、柏崎エネルギーホール、信濃川電力所、当間高原リゾート、出雲崎拠点の4拠点を整備
- 災害対策支援拠点を多重化することで、支援活動を強化



出典：国土地理院電子国土Webシステム

2. 運営体制の構築の取り組み（1/2）

概要

- 新潟本社の設置
- 新潟県知事の掲げる3つの検証へのご協力

主な取り組み

<新潟本社の設置>

- 2015年4月、新潟本社設立
 - 県内全域における広聴・広報活動や原子力災害時の避難支援策の検討・実施
- 2018年3月、新潟本社行動計画を策定し、活動拠点として、柏崎市内に「まもる・そなえる・こたえる」オフィスを開設
- 2019年4月、新潟県の皆さまとのコミュニケーション活動をより強化していくため、柏崎市内のカムフィー2階に地域対応業務の拠点として新たにオフィスを開設
 - 「まもる・そなえる・こたえる」オフィスを拠点としていた地域対応要員が、同オフィスへ移転。さらに、フリーアドレスを導入し、新潟本部や発電所内の地域活動要員も利用
 - 広聴活動で得られた地域の声を活かし、地元目線の取り組みを充実させていく

<まもる・そなえる・こたえるオフィス>



<カムフィー>



主な取り組み

<新潟県知事の掲げる3つの検証へのご協力>

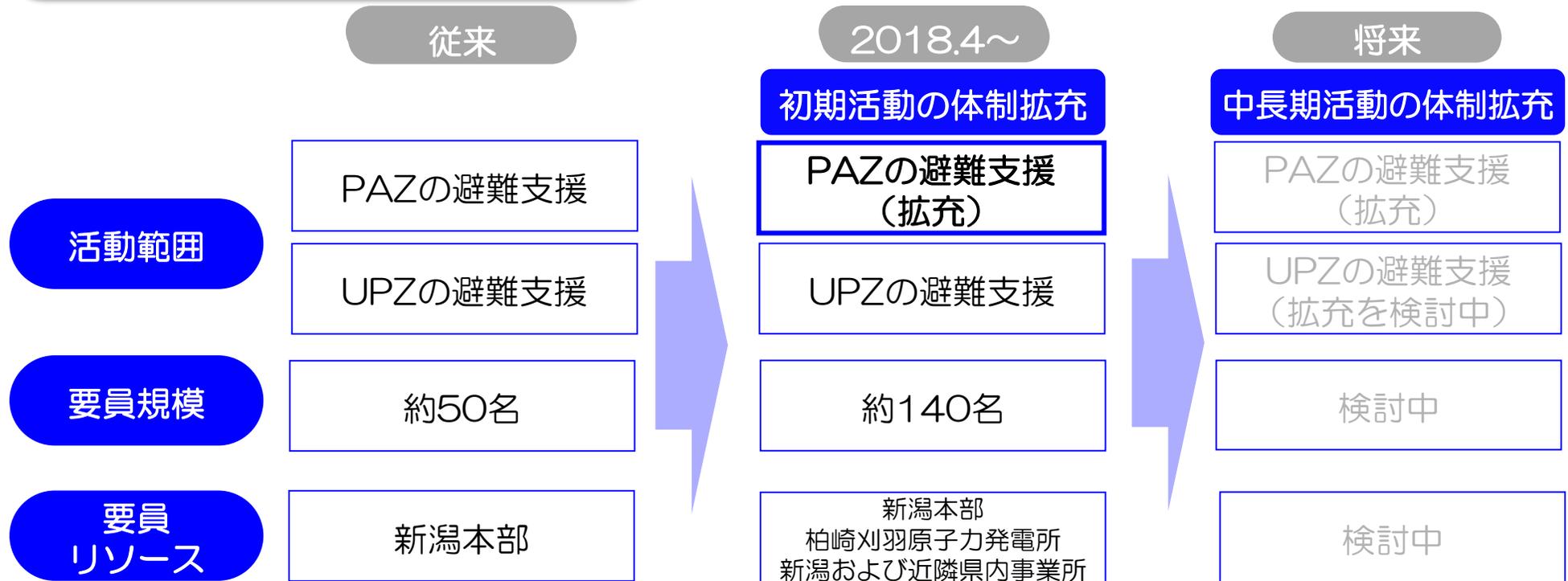
- 新潟県の皆さまの安全・安心のためにも、新潟県が進めている検証作業は重要なことであると考えており、ご協力をさせていただきます
 - 新潟県技術委員会
 - ・ 2012年より行われている福島第一原子力発電所の事故原因の検証について、ご協力させていただいております
（2020年10月26日、とりまとめられた検証報告書が、知事へ報告されております）
 - 新潟県避難委員会
 - ・ 2017年より行われている原子力災害時の避難方法に関する検証について、ご協力させていただいております

- 新潟県技術委員会において、柏崎刈羽原子力発電所の安全対策の確認についても、ご協力させていただいております
 - 2021年8月6日に「柏崎刈羽原子力発電所の安全対策の確認事項22項目の内、当社が説明する19項目」および「柏崎刈羽原子力発電所の核物質防護に係る取り組み状況」について説明させていただいております

3. 防災支援の取り組み ① 緊急時の初動体制（1/2）

- 「避難支援チーム」を、2018年4月1日から、新潟本部、柏崎刈羽原子力発電所、新潟県域および近隣県内事業所との協働体制を確立することにより、初動要員を約140名体制へと増員。また、防災や避難支援業務を専門とする社員が柏崎市内に常駐
- これにより、概ね5km圏内(PAZ)の避難支援を行う初期活動の体制を拡充
- 更に、概ね30km圏内(UPZ)の避難支援活動の体制の拡充についても検討中

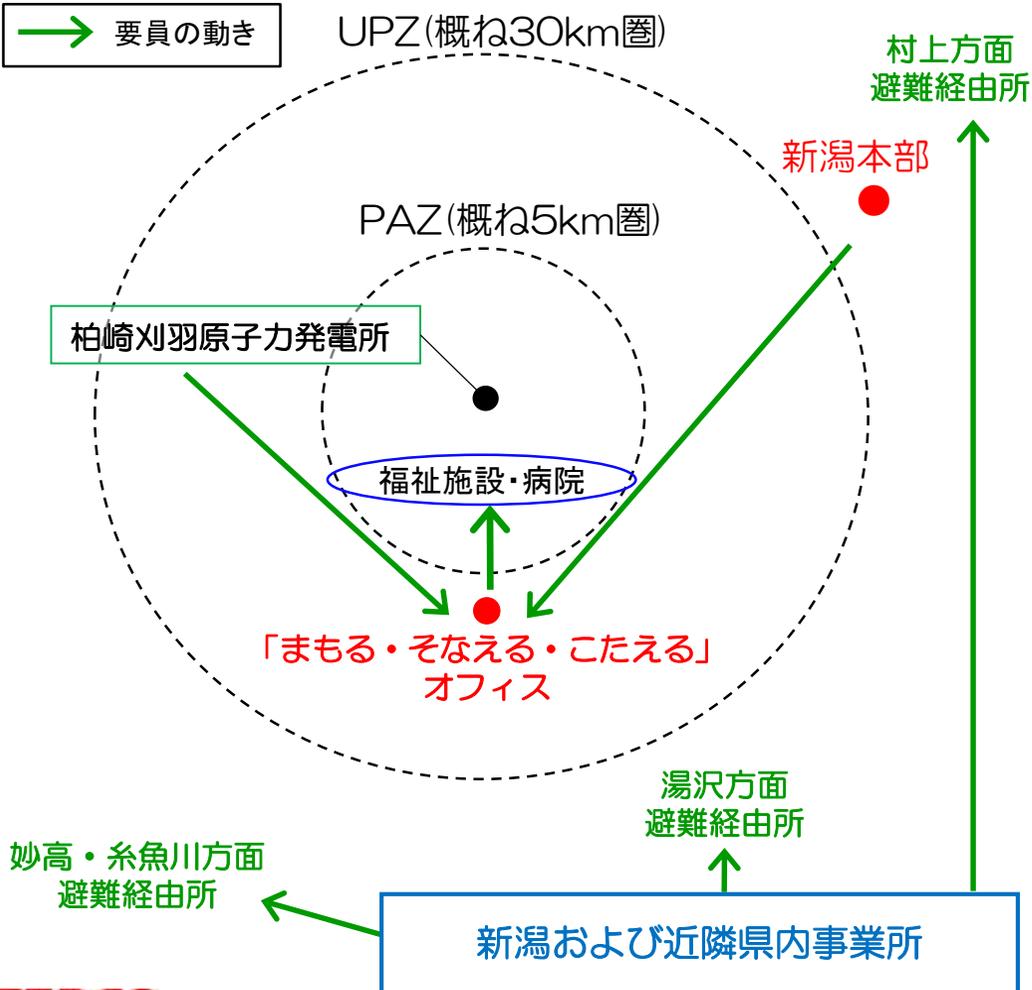
「避難支援チーム」の増強（緊急時）



3. 防災支援の取り組み ① 緊急時の初動体制 (2/2)

緊急時における初期活動(PAZの避難支援)の体制

- 約140名による初期活動の体制に拡充
- 今後、訓練を重ねてクイック&パワーアップを実現



	活動内容	要員 リソース
初期活動	①介護を必要とされる方々の避難支援 (福祉車両・バス等の運転、移動介助)	新潟本部、 柏崎刈羽 原子力発電所
	②福祉施設・病院 (屋内退避施設)の運営支援 (介護補助、物資補給)	
	③PAZ避難経路所の運営支援 (開設、案内・介助、車両誘導)	新潟および 近隣県内 事業所

<介護技術講習>



<福祉車両>



■ 2021年7月29日

新潟県が実施する『緊急時モニタリング個別実動訓練』が行われ、新潟県との「原子力防災に関する協力協定」に基づき、訓練に参加。振り返りを実施し、協力体制等を確認した。

< 当社参加の訓練（参加実績） >

訓練項目	実施内容	当社参加人数
<ul style="list-style-type: none"> 緊急時モニタリング個別実動訓練 (7月29日実施) 	<ul style="list-style-type: none"> 放射性物質の汚染を防ぐための防護服着用および、熱中症対策のための冷却ベストの着用訓練 放射性物質による汚染状況を把握するための土壌および、飲料水の採取訓練 	3名

< 汚染状況を把握するための土壌採取訓練 >



< 汚染状況を把握するための飲料水採取訓練 >



- 2021年度第2四半期（7月～9月）でのトピックスは以下の通り。
- 『防災、減災及びレジリエンスの向上』に関する5つのテーマの共同研究は、順調に進捗。
- 2021年9月1日 地域防災実践研究センター設立
- 2021年9月2日 「記念講演会」、「防災実践研究成果報告会」の開催

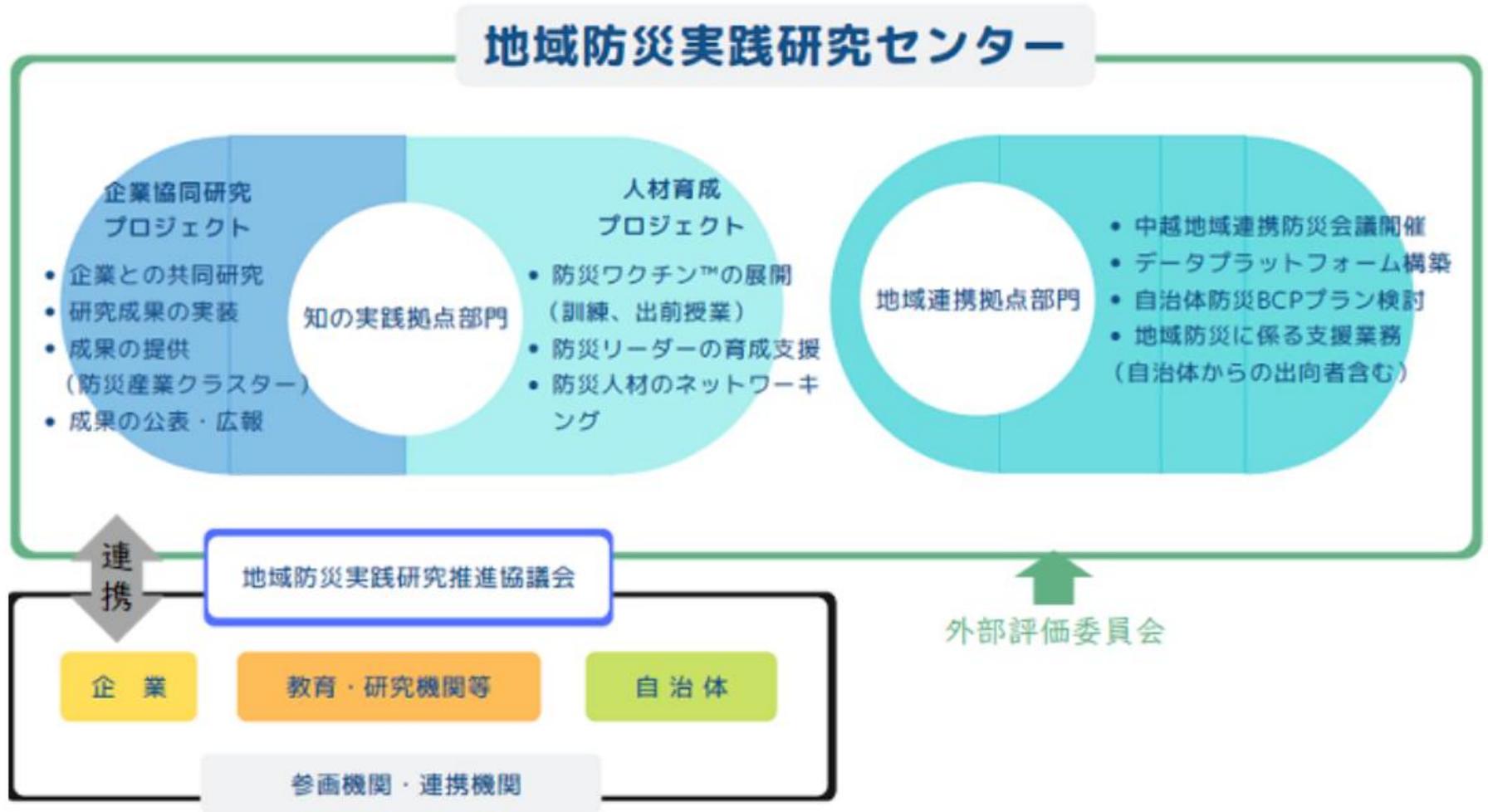
地域防災実践研究センター設立の趣旨

- 防災に係る様々な研究を、産学官の連携にて実施するとともに、開発された技術の社会実装に向け、実データを取得する場所として整備
- 防災の経験や知識、研究成果を集約・融合し、新潟県における防災の「知の実践拠点」としての基本機能と、水害に強い立地、通信や先端設備が既に存在する長岡技科大の利点を活かし、将来は地域の緊急時対応の「地域連携拠点」としての付帯機能を想定

共同研究成果の報告

- 長岡技科大との共同研究は、5グループ11プロジェクトにより進めている
- 「地域防災実践研究センター設立記念講演会」の防災実践研究成果報告会にて、地域の人材育成のための教育プログラムの構築など、研究成果の社会貢献について報告

体制図



4. 地域貢献の取り組み ② 地域行事への参加

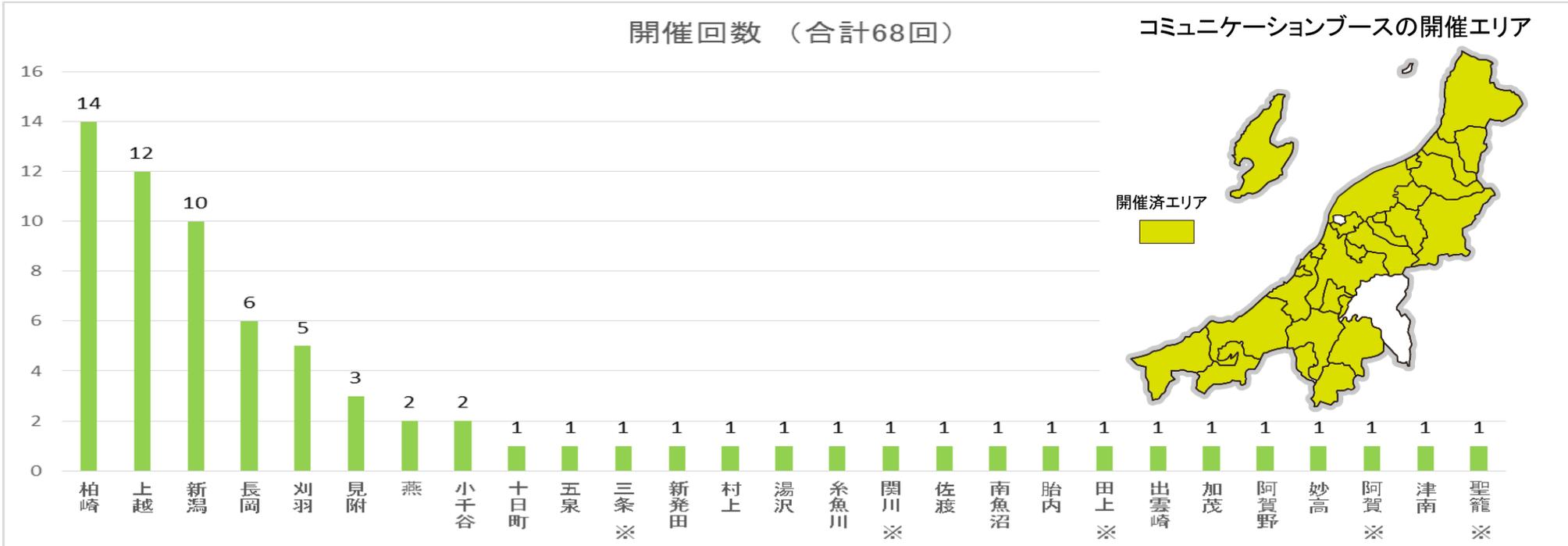
<2021/7/1～2021/9/30の実績>

地域行事	実施日	作業内容	参加者数
津南まつり	7/22～ 8/8	「津南まつりWEEK」期間中の ライトアップ	6名
柏崎港観光交流センター 夕海イベント	7/24 7/25	駐車場整理、飲食販売補助、 場内整理、遊具運営管理	10名
SDGs 柏崎・夢の森公園 「アジサイロード」整備活動	7/31	枯れたアジサイの花柄摘み作業	24名
中津川運動公園河川敷の環境整備	8/4	河川敷広場の除草作業	12名
刈羽村ふるさとまつり	8/16	会場清掃作業	24名
段丘さくら草刈り	9/15	津南町に植樹している「段丘さ くら」周辺の除草作業	4名

実施内容

- 新潟県内において「東京電力コミュニケーションブース」を設置し、県内の皆さまからの疑問やご意見など、さまざまな「声」をお聴きしております。
- 当社は、現在、柏崎刈羽原子力発電所における「安全対策工事の一部未完了」、「核物質防護事案」を踏まえ、発電所の安全性や業務品質の向上に取り組んでおります。これらの取り組みを直接、地域の皆さまにご説明するとともに、ご意見を拝聴したいと考え、開催いたしました。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、2020年3月3日より開催を自粛しておりましたが、感染防止対策を十分に実施した上で、2021年7月19日から再開いたしました。



※2つの市町村にお住まいの方を対象として開催し「声」をお聴きしているブースがあるため、開催回数とグラフの合計値は異なります。（2021年9月30日 現在）

実施内容

■開催日程・場所

●上越市

7月19日 (月)

かきざきドーム

7月20日 (火) ~ 7月21日 (水)

リージョンプラザ上越

●見附市

7月31日 (土) ~ 8月 3日 (火)

ネーブルみつけ

●小千谷市

8月 6日 (金)

小千谷市総合体育館

※8月6日~8月8日で開催を予定しておりましたが、新型コロナウイルス感染拡大により
8月7日から体育館が閉鎖されたため、8月6日のみの開催となりました。



■会場でいただいた声

- 以前、柏崎刈羽原子力発電所を見学して、一生懸命やっていると思っていたら、今回の件で裏切られた感じ。
- 最終的には人の問題。教育をしっかりと欲したい。
- 工事は必ずミスが起こるもの、ミスのフォローは必須。繰り返さないことが重要。
- 東電は技術力があるのだから常に高い目標を目指してほしい。
- たくさん所員がいるのだろうが、一人ひとりが自覚をもって安全にやってもらいたい。

5. 傾聴と対話の取り組み ② 地域の皆さまへの説明会

- 地域の皆さまからのご意見を伺い、発電所の状況や当社の取り組みをお伝えする貴重な場として「地域の皆さまへの説明会」を実施しております。

開催実績（新潟本社設立以降）

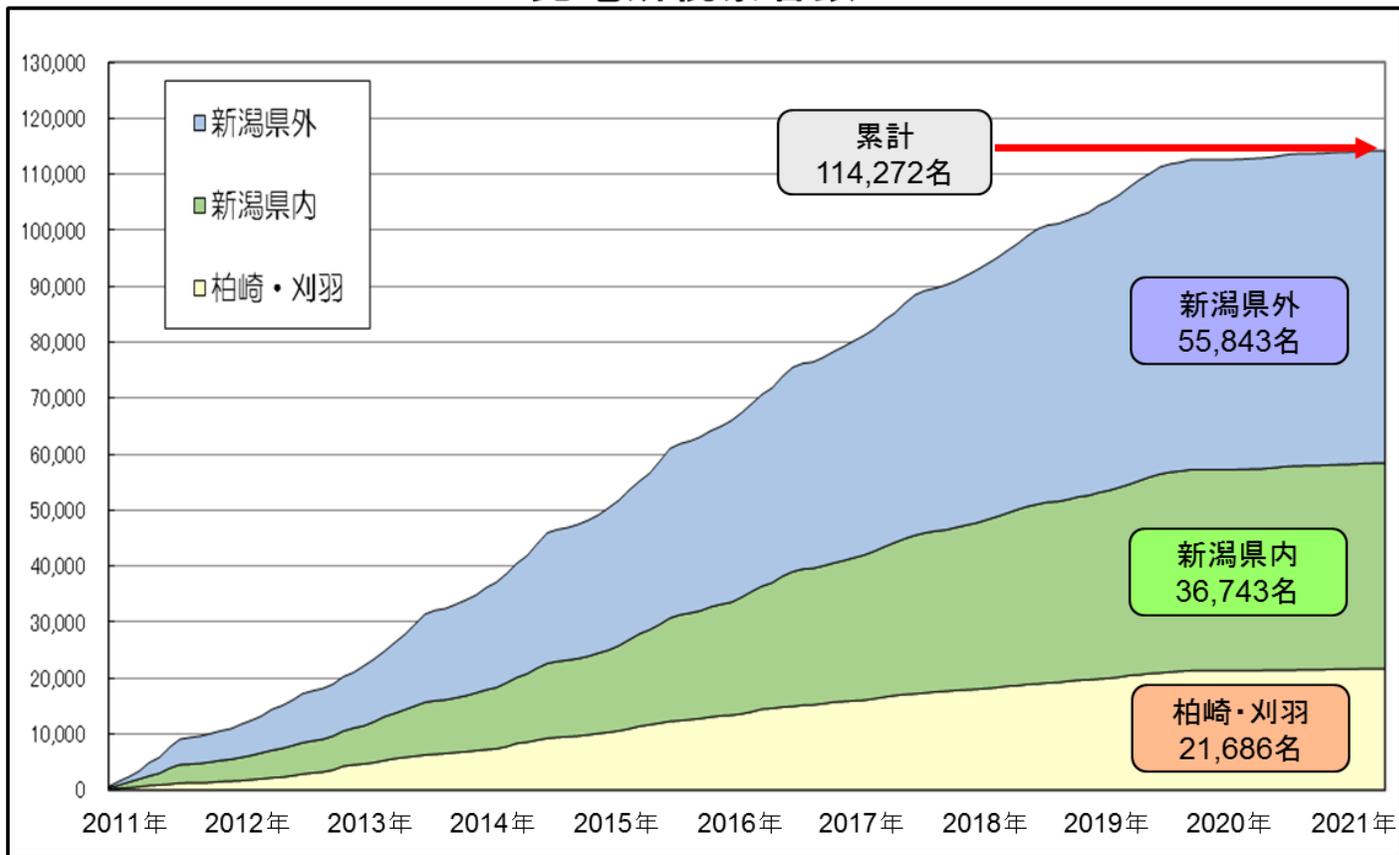
日時	場所	参加者数
2015/6/8	刈羽村生涯学習センター ラピカ	64名
2015/6/9	柏崎市産業文化会館	128名
2015/12/21	柏崎市産業文化会館	128名
2015/12/22	刈羽村農村環境改善センター	44名
2016/9/13	柏崎市市民プラザ	79名
2016/9/14	刈羽村 高町地区集会場	24名
2018/1/30	柏崎市産業文化会館	98名
2018/1/31	刈羽村生涯学習センター ラピカ	52名
2021/1/25	柏崎市文化会館アルフォーレ	107名
2021/1/27	刈羽村生涯学習センター ラピカ	79名
2021/2/8	長岡リリックホール	109名
2021/2/9	上越文化会館	66名
2021/2/12	新潟ユニゾンプラザ	108名



- 新潟県内をはじめ、多くの皆さまに、福島第一原子力発電所の事故を踏まえ、取り組みを進めている柏崎刈羽原子力発電所の安全対策などをご視察いただいております。

発電所視察者数

(2021年9月30日現在)



【防潮堤（5～7号機側）】



【貯水池】



新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、「発電所のご視察」は3密回避等の感染拡大防止対策を講じた上で、実施しております。

以上